

上部消化管内視鏡検査の説明および同意書

【検査目的】

上部消化管内視鏡(胃カメラ)検査は、食道・胃・十二指腸(一部)のがん、ポリープ、炎症などの病気を発見する最も精度の高い検査です。

【上部消化管内視鏡検査方法】

のどを局所麻酔してから、鎮静剤(胃腸の動きを止める薬)を注射した後、内視鏡を口から挿入し、消化管の中を直接観察して診断を行います。観察時間は5分から15分程度です。検査中に何か異常が認められたとき、または疑われた場合には必要に応じ次のようなことが行われます。

- ① 粘膜組織の一部を採取し、細胞や組織の検査を行います。
- ② 病変部位に色素を散布し、病変を明瞭にして診断の手助けとします。
- ③ 出血などが認められた場合には止血操作(内視鏡的止血術)を行います。

【起こりうる偶発性(十分注意しても事前に「絶対ない」と言い切れないもの)】

- ① カメラがこすれることや嘔吐による喉(のど)から十二指腸までの粘膜裂傷、出血、穿孔(穴があくこと)
- ② 粘膜組織の一部を採取した際の出血
- ③ 使用する薬剤(咽頭麻酔剤・鎮静剤)によるアレルギーショック・低血糖・不整脈など
- ④ 咽頭の損傷・穿孔、誤えん性肺炎、歯の損傷
- ⑤ 治療中の病気(脳梗塞・心筋梗塞など)の悪化

日本消化器内視鏡学会が5年ごとに行う全国集計では、これらの合併症は0.005%、死亡例も0.00019%と報告されています。このような偶発性を避けるべく細心の注意を払いますが、万一生じた場合には最善の対処を致します。ただし、やむなく処置(入院、手術を含む)が必要になった場合の医療費は患者さんの負担となりますのでご了承下さい。

【鎮静剤の使用について】

当クリニックでは内視鏡検査を行う際に、患者様の負担を軽減させるために鎮静剤を使用して検査を行っています。鎮静剤は、検査の際に緊張を和らげ、検査を楽に受けて頂くために使用します。方法は静脈注射になります。検査後も眠気が残り判断力が低下する事があります。当日は車やバイクで来院は控えられて下さい。鎮静剤の使用において希望されない方はスタッフに伝えられて下さい。

内視鏡検査、組織検査、治療(止血術)同意書

説明者 自筆

私は、上記の説明を受け、納得しましたので検査、処置を受けることに同意します。

平成 年 月 日

患者様御本人 自筆

ご家族氏名 自筆 (続柄)

緊急時の連絡先 自宅電話・携帯電話 (続柄)